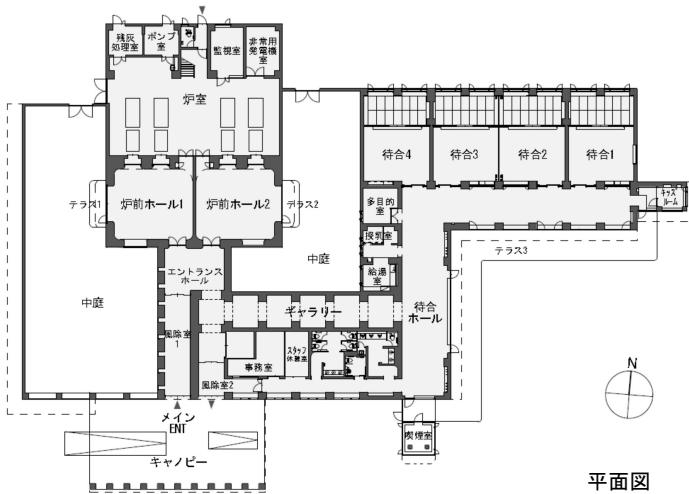


音更町火葬場

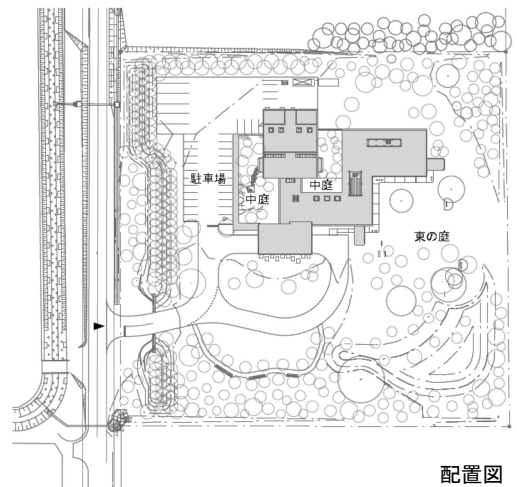
森の中の火葬場(ランドスケープデザイン)



キャノピー (南中時)



平面図



配置図

計画概要

◇ワークショップによる設計手法

十勝平野の田園風景が広がる敷地に老朽化した既存の火葬場があり、同じ敷地内での建替えが求められた。平成 22 年度、設計者プロポーザルにおいて私たち象設計集団が選ばれた。私たちはまず町民に対して専門家による講演会を開催した。また、住民参加のワークショップを行い、町民の意見を取入れながら設計を進めていった。

◇森の中の火葬場(ランドスケープデザイン)

敷地には樹齢 50 年のカシワの木が点在している。これらの木々を活かした配置及び平面を計画した。東の庭は待合ホールから

カシワの木々、その向こうには音更らしい雄大な農の風景を望むことができる。また、2つの炉前ホールに隣接する中庭では木々の紅葉や雪景色など、春夏秋冬その時々体験と記憶をつくり出す。さらに、火葬を待つ人はこれらの庭に出て思い思いの場所で休むことができるよう配慮した。

◇個別化された火葬場

都市部の火葬場は火葬件数が多いので一筆書き型となり、葬送行為が流れ作業となる。時には会葬者のプライバシーがおかされ、心ゆくまで見送りが出来ない。音更町では、告別・見送り・収骨の一連の葬送行為を全

て同じ炉前ホールで行い個別化・専有化を計ることによって他の会葬者を気にせず故人と静かなお別れが可能となった。また、この案はワークショップでも受け入れられた。

◇光と影のデザイン

火葬場という用途であることから、華美なデザインを避け、シンプルなものとした。施設に入ると壁に一定間隔で空いたスリットから漏れる柔らかい光が会葬者を迎える等、光と影による空間づくりを試みた。また、仕上げに左官壁・天井を使い、悲しみに包まれた人々をやさしく、包み込むような柔らかなデザインとした。



風除室 1



炉前ホール



ギャラリー



待合ホール



待合室



待合ホール（待合室を望む）

■ 建築概要

施設名称	音更町火葬場	最高高さ	9.64m	工事期間	2012年6月～2013年10月
設置者	音更町	最高軒高	8.64m	供用開始	2013年11月
所在地	北海道河東郡音更町字音更西4線52番地	設計監理	株式会社象設計集団	主な外部仕上	
敷地面積	17,169.00㎡	施工	萩原・道東ハウス・猪子特定JV	屋根	塩ビシート防水
建築面積	1,568.05㎡		大昭・音更・勝栄特定JV	外壁	牡蛎モルタル掻き落とし仕上げ
延床面積	1,547.83㎡		王勝・仁木特定JV	主な内部仕上	
主要施設	火葬炉4基、炉前ホール2室、待合室4室、待合ホール		フジ・杉浦特定JV	<炉前ホール>	
駐車台数	一般用23台、障害者用1台、バス用4台	設計期間	株式会社宮本工業所	天井・壁	牡蛎灰漆喰糊ゴネ仕上げ
構造	RC造		2011年2月～2011年6月（基本設計）	床	御影石
階数	平屋建一部2階建		2011年9月～2012年3月（実設計）	<待合室>	
				天井	和紙クロス、なら竿縁
				壁	ひのき無垢板
				床	タイルカーペット